「地方分権改革に関する公開討論会」終了後の記者会見概要

【日　時】　平成２１年８月７日（金）１５：１０～１５：４０
【場　所】　憲政記念館
【出席者】　麻生全国知事会会長
古川政権公約評価特別委員会委員長（佐賀県知事）
橋下政権公約評価特別委員会委員　（大阪府知事）
森全国市長会会長　（長岡市長）

（麻生全国知事会会長）
このような３党のマニフェストを中心とした分権政策の公開討論会は初めて。この初めての試みをしたわけであるが、非常に率直で踏み込んだ議論を提起したが、それに対して、それぞれの考え方がマニフェストの文章で書いてあることのもう少し踏み込んだ内容、または背景となる考え方まできちんと説明をいただいた。その意味で、この公開討論会は、分権を進めていくという観点からすると、ずいぶん大きな推進力となり、また、ここで発言された内容が、分権を進める上で将来の大きな布石、原動力になったと思う。３党とも、言葉は少しずつ違っているが、今の日本の変革のためには分権をやらなければいけないという共通の考えをもっている、方法論はだいぶ違っていますが、こういうことが確認された。我々は、この討論会を一つのステップに更に分権を進めたい。

（古川委員長）
やり方について様々な議論があったが、こういう形で、比較的シャープに議論ができたと思う。関係者の方に心から感謝を申し上げる。

（橋下知事）
この討論会にずっとエネルギーをこめていろいろやってきたので、メディアの皆さん通じて、世論喚起していただいたので、こういう形になって非常にありがたく思っている。
ただ、やはり、この討論会は、知事のための、また市長のための討論会。時間の制約があったのでそういうふうになっているのかと思うが、国民の皆さんに分権をやったらどうなるかという、国の将来像を示すのが、これからの知事会としての正念場かと思う。
この討論会だけでは、国民の皆さんは何が何だか分からないと思うので、次は、本当に知事会の、または全国市長会の正念場。どうやって、将来像、国のあり方を示すか、そこが第二段階と思っている。

（森全国市長会会長）
大変出席させていただいてありがたかったと思っているし、中身の濃い議論だったかと思う。
私の申し上げたマニフェストの策定過程をもっと開かれたものになって、多くの人が参加するということは、いわゆる泥仕合にならずに、政党がマニフェストを通じて議論する要だと思う。
菅さんは政党の責任ということをおっしゃっていて、それは分かるが、やはり政党というものが国民に定着して開かれた政党になるためには、マニフェストの策定段階から開いていかなければならない、ということを今日申し上げたが、私としては、これについて引き続き運動をやってまいりたい。

＜質疑応答＞

（記者）
　橋下知事にお伺いする。各党に対し、国と地方の協議の場の法制化に関し、詳しい説明を求められましたが、各党の方針についてどう評価するか。

（橋下知事）
　点数化含めて、優劣は個人で言うべきでないと思っている。あくまで知事会名で出すので、個人の優劣はちょっと控えたいと思っているが、字面に現れない魂の部分、熱意を確認しなければということを大阪でもずっと言ってきていたが、今日おおかた聞けた。本当に良かった。３党の先生方に真摯にお答えいただき、これは映像で見たとしても字面で現れない部分が伝わったのではないか。

（記者）
　橋下知事に質問ですが、国と地方の協議の場について質問するなかで、「これまで全く聞く耳を持ってもらえなかったのに、これまでとどう変わったのか」とおっしゃっていたが、ご自身としては、地方の声がこういう形で政党のマニフェストにしっかりと書き込まれるようになったのは、なぜだとお考えか。

（橋下知事）
　それは知事会側、全国市長会側も、今までのように紙にまとめて要望を出すだけではなく、まだリスクの取り方は不十分だと思うが、それでも４７人の知事ないしは全国市長会、政令市長会もそうであるが点数化して優劣をつけると。
　知事会も過去に２度ほどやっていたと思うが、状況が全然違うので。世間から関心もたれていないときに評価をするのと、このようにメディアの皆さんが一生懸命報じてくださるなかで評価をするのは少々のリスクはあると思う。そうしたリスクをとった行動によって、やっと政党がこちらを振り向いてくれた。
　その優劣によって有権者がそれを持ってどちらの党に投票するか決めるかも分からない、ということが政党に伝わった。やはり政治闘争である。行政のやり方では何も動かないので、知事会側が政治的な闘争に踏み切ったことが一番大きな要因。

（記者）
　麻生会長にお尋ねする。国と地方の協議の場の法制化に関して、民主党の話を聞くと、推進体制と協議の場をいっしょにしたほうがよいと玄葉さんは発言していた。そもそも知事会が提案している協議の場とはどういうイメージか。

（麻生全国知事会会長）
　私は、あの区別はそんなに意味のある区別を提起してはいないと思う。我々は協議すると同時に、直ちにそれを実行担保する機関を求めている。協議する機関があって、別途実行の機関があるというのは、我々は求めていない。協議してそれが実行される担保のある協議の場を求めている。

（記者）
いっしょであることに問題ないということか。

（麻生全国知事会会長）
まさに、二つの目標を達成するような枠組みの協議会を設定するかという。具体的な制度設計の問題になりますが、そこを分けて考えることについて、私はそれは必要ないと思う。実行を伴った機関でないと意味がないと思う。

（記者）
松山市長が指摘してたが、今日の討論会を実効性あるものにするために、明日の採点結果に、この会がどれぐらい反映されたかを公表するつもりがあるか、また、現時点で公表されている知事もいるし、回答を送ったと明言されている知事もいるが、今日の討論会を受けて全員が修正する前提で話が進んでいるのかどうか。このへん、採点の発表のルールをまずおたずねする。

（古川委員長）
今日までに、多くの知事が現時点における評価を送っていただいている。送っていただく前提として、今日の公開討論会があるので、直接またはライブやネットで見ていただき、または誰かに見てもらったものを報告を受ける形でも結構なので、明日の午後４時までに修正した結果を送ってほしいというお願いをしている。
また、今回、全国知事会としての評価をまとめるに当たっては、最終的に２９人の知事が集まって出した結果を全国知事会の意思として出すから、全国知事会としての一つの結果になる。個別の点についてはこちらからは公表しないということをあらかじめルールで決めてスタートしているので、個別でどういう点がついていたかということについて発表する考えはありません。
この公開討論会の結果をしっかり反映させてもらうという前提でスケジュールを組んでいるところ。

（記者）
橋下知事にお伺いする。魂が見られたと言っていたが、今後、マニフェストに載っている以外の口約束で終わらせないための実効性の担保が必要だと思うが、現時点で知事会として、どういう行動をすべきかと頭の中にあるか。

（橋下知事）
映像が残っている。有権者の判断の資料になるということでいいのではないか。知事会としてというより、僕個人として、今日聞いたこと、今日発言なさったこと、玄葉さんが「ここは公約だと思っている」とあの場で非常に重く受け止めていただいていますので、それに反することをやったら、記者会見ごとに嘘つき政党呼ばわりずっと言い続ける、そういうことしかないと思う。

（古川委員長）
それに関連して、今日の各党のお答えのなかで、どんな質問にも、「わかりました」とか「やります」という答えじゃなかった。「これは無理です」とか「それはこれからです。」という感じで、きちんと検討が進んでいるもの、またはイエスと言えるもの、言えないもの、そういった

ものがはっきり出てきたということは、３党それぞれが責任を持ってお答えをしてもらっていると感じている。それが、本来の姿であると思う。

（記者）
麻生会長にお伺いする。国と地方の協議の場の関係であるが、今日、民主党も含めて法制化に関しては３党そろって回答されたわけだが、それを受けて、次のステップとして、知事会として工程表を求める考えがあるのか。例えば、選挙後の臨時国会に国と地方の協議の場の設置法の制定を求める、との再質問を各党にする考えはあるのか。

（麻生全国知事会会長）
秋、９月段階になると思うが、我々は早速、国と地方の協議の場について、具体的な案を提起し、それを新しい政権に持ち込んで、その実現に向けた活動を具体的に始める考えである。

（記者）
この討論会で本気度を見極めるということで臨んでいたかと思うが、最もどこに本気度を感じたか。そして、今回の討論会を経て、意中の党は変わったか。

（橋下知事）
答えが的確でなければ再質問していただきたいが、最後は首相のリーダシップ。リーダーに尽きる。
今日の本気度と言っても、マニフェストの担当者がいらっしゃったわけだが、結局、何が重要かと言えば、リーダーのリーダシップである、当たり前だけど重要なそういう言葉が３党から出たと見ている。
難しいが、麻生総理、鳩山代表のそこを見るしかない。何が変わったか、自分の判断が変わったかということに関して、それは優劣の評価になってしまうが、現政権与党には厳しいかもしれないが、何故、これまでできなかったことが次変わるのか、その点、腑に落ちていない。変化という部分について、菅先生、山口先生の回答では、ちょっとはぐらかされた気がした。

（記者）
ちなみに、どこが腑に落ちなかったのか？

（橋下知事）
変わった原因を真正面から答えてもらえなかった。党としてこういうことがあり、こういうことが変わった、ということではなく、これは意気込みをみてください、という話になってしまった。
今まではこういう理由でできなかったけれど、今回自民党は、こういうふうに変わってこうなりました、 という部分が見えなかった。これは、政権与党としては厳しいところだと思う。民主党は今までの実績がないわけで、僕はそれで玄葉さんには回答を求めなかった。そこは公平ではないと思うが、ただ、自民党がどう大きく変わられたのか、見えなかったというのが正直なところ。

（記者）
会長と古川さんにお伺いしたい。まず、会長に伺うが、国と地方の協議の場の法制化の目処を９月ぐらい検討とのことだが、どういった形で代表を選ぶのか。あるいは民主党が国家戦略局や行政刷新会議に地方代表を入れるという話で、知事会として代表の選考過程をどうするのか。

（麻生全国知事会会長）
代表というのは、国と地方の協議の場の議長さんや会長さんという形でしょうか。それは、今日提案があったように交代制も考えられる。やはり、国側という点であれば、総理という議長もあるだろう。そこは、協議の場の位置づけ、考え方で変わる。交代制というのは徹底した平等という考え方を表現している形だと思う。
その点重要であるが、いずれにしろ、どのような構成でどのような権限を持つ会議とするかが重要であると思う。

（森全国市長会長）
この要望については、従来から六団体としてやってまいったので、地方側は地方六団体がベースになると私は思っている。

（麻生全国知事会会長）
地方側はそうですね。

（記者）
古川さんに伺いたいが、あの場で税財源の確保ができるのかという質問をしていたが、それについて民主党が回答していたが、その不安は払拭されたか。

（古川委員長）
一定の払拭はできたかと考えている。一括交付金を具体的にどうするのか詰め切れていない印象があったが、現時点ではそれで足りるのかなという気はしている。
総額としてきっちり確保するという姿勢を、玄葉さんの方からたびたび示していただいたが、今日のこの場の発言は公約そのものと考えているという強い決意がありましたので、それによって、非常に不安のあった部分が一定解消されたというのはあると思う。

（記者）
古川さんか麻生さんか、どちらに伺えばいいか分からないが、今日は、なぜ、３党だけだったのか。社民党や共産党の人もたぶん知事に入れた方もいると思うが、なぜ、今日３党だけなのか教えていただきたい。

（古川委員長）
政権公約評価をやってきたのが私の委員会であるので、私からお応えする。
何で、こうだったのかと問われれば、これまで３党だったから、というのが答えになる。
それで十分か、足りるのかと言われると、これが唯一のオンリーアンサーとは思っていない。今回は今までの流れのなかで、こういうやり方をしてきたが、２大政党ということを考えれば、主導して政権をとる政党、つまり具体的には、自民党と民主党だけを対象にする考え方もあると

思うし、逆に政党要件を満たすすべての政党の評価を行うという考え方もあると思う。ただ、そうなると、私の私見では、かなり細かく守備範囲を広げていかなければならないということになりかねず、こうした政権交代をめぐった総選挙が続くのであれば、むしろ、与党第一党と野党第一党に絞って、評価をさせていただくのが望ましいのかな、という印象を今の時点では持っている。

（記者）
橋下知事に伺いたい。会見の最初に、ここからが正念場とのことだが、次のステップに行かなければとのことで、それはどういう方向性、あるいはイメージであるのか。

（橋下知事）
麻生会長のリーダシップに基づく、知事会の政治活動である。役所にペーパーを持って行く回数よりも、国民にメッセージを発する回数を多くしなければならない。知事や市長は分かっているが、分権と言っても、国民は分からない。
対国に対して、対役所に対して、働きかけをする知事会という性格を、対国民向けに大きくシフトしていく。
麻生会長は戦略会議を設置するということを前回の知事会議で決議されたので、そういう大きな戦略で、対国民への知事会ということが、これからの正念場、と僕は思っている。

（記者）
方法論はありますか。

（橋下知事）
また、東国原知事に事件を起こしてもらうことですかね。やはり、メディアの皆さんは対権力チェックであるから、いっしょになったら本質的におかしくなるので、とことん批判と緊張関係でやらなきゃいけない。
こちら側は権力側であると言っても、国民の皆さんにメッセージを発するときに、地道にシンポジウムや何やらやるが、メディアの皆さんの力というのは大きいので、そこは、緊張感を持ちながら、でも、しっかりと報じていただくような、ちょっと、さっきの事件を起こすというのはシャレであるが、しっかりと報じてもらえるように知事会サイドも今までのやり方を改めていく。役所的なやり方ではなく、どうやったらメディアの皆さんを通じて、国民の皆さんにメッセージが届くのかというところを主眼に置いた戦略設定が必要になるのではないか。

（記者）
玄葉さんは、地方消費税に関して、４年間は１％維持し、将来の拡充も議論はできるのかとの発言だったと思うが、これまで民主党は消費税については議論もしないということだったと思うが、この点、どう考えるか。

（麻生全国知事会会長）
今日の玄葉さんの発言によると、４年間は消費税をあげない、手をつけませんと言ってますが、同時に、その後の消費税問題については検討するという方向での発言があったと思う。その検討するという中で、地方消費税の扱いについて、実はいろいろ考えているということで、あれ

は非常に正直な説明だったかと思う。私共は、現在の国・地方の財政状況を考えた場合、どうしても、やはり、消費税という形での税制を強化していかざるを得ないと思っているが、そのような考え方とのギャップは、４年間を通じて、もし民主党があれだけ柔軟な態度をとるのであれば、対応可能と思う。

（古川委員長）
私が質問したわけであるが、地方消費税と消費税をきちんと分けて考えている、という話と、地方消費税は将来的には充実していくべき財源であるという方向でのお話があったということについては、言質という言葉が適切かどうか分からないが、そういったことが確認できたと思っている。

（橋下知事）
これも質問の趣旨を外れていたら、再質問をいただきたいが、税をあげる議論は改革の途中経緯においては絶対にやるべきではない。そんな話をしたら役人が大喜びである。
とにかく、税の話はさておき、ぎりぎりまで改革をやっていくことが必要だと僕は思っている。そういう意味で、知事会の決議はあったんですが、僕は麻生会長に、自治体、特に都道府県が一斉行動を起こして、まだもっとやれる行革を７項目か８項目を麻生会長に提示させてもらった。
定義はいろいろあるが、僕にとっては国の天下りも地方の天下りも同じだと思っているので、こういう天下りを全廃も含めて都道府県がまずやる。そういうことをやったうえでの税のお願いということだったら筋が通る。
僕は、知事会も、先ほど申し上げたように。対国に対するメッセージでなく、対国民向けに、ということであれば、まだまだ改革が不十分ななかで、税をあげてください、ということを国民に向けて発するのは大間違いと思っている。
今日、森会長がいるので、あえて言わせてもらうが、今日の日経新聞に市町村、特に市の職員の給与の問題があがっていて、人事委員会がないなかで、平均給与を見たら、僕はびっくりした。地域手当も国より高くもらっているなど、あんなことをしていたら、国民はついてこない。
職員の給与問題、こういうものも自治体側が、国民が納得するようにきっちり提示して、人事委員会や人事院に頼らずに、本当に国民が納得するような金額がどういうものか、これも僕は麻生会長に提示したが、給与の適正水準というものもきちんと計った上で、そういうことをやっていかないと。市町村の給与水準が高いと報じられているなかで、税をあげてください、それから国に対して交付税上げてください、とかいろんな知事さんの意見もありましたが、僕は大反対。
やっぱり、知事会がこれから国民向けにメッセージを発するんであれば、国全体の借金のことも考えて、国の借金を減らすんだったら、地方もここは我慢する、と。なんでもかんでも、国にくれくれ言うと、それは知事のための分権だ、と誤解を招くメッセージに今日はなっていると思う。国全体の借金をこれだけ抑える、地方もこれだけ我慢する、だけど、国と地方のあり方をこういう形にするから、国民の皆さんついてきてください、という方向にしないといけない。今日、ちょっと、金をくれ、金をくれというメッセージになっていたところが気になった。

（森全国市長会会長）
全国市長会については、知事会とちょっとニュアンスが違っていて、消費税全体については特に言っていない。

ただ、地方消費税は、最も偏在性が少ない税源であるので、地方消費税の拡充、これは、会としては言っていないが、私個人としては、法人２税を国にお返しして、その分、地方消費税を増やすほうが、地方の偏在性をなくすという意味で、大変いいことだと私は思う。そういう方向でいずれまとめていかなければならないと、会長として考えている。

だから、私共は、地方消費税の拡充ということしか、今、申し上げていない。

橋下知事のおっしゃったことについては、私はその新聞記事を見ていないが、時々、財務省の陰謀で、地方公務員の極端な事例をあげては、攻撃して、国の方が改革していると言う傾向があると聞く。そういうことかどうか分からないが、私の記憶では、ラスパイレス指数は地方が国よりも一貫して下がっている。時々、国の審議会に出ると、地方のほうがぜいたくしていると誤解している人もいるが、私は、ラスパイレス指数が一貫して下がっている、十分かどうかの議論は別として、地方の方が、給与面については国よりも努力している、ということは確かである。そのことだけは申し上げておきたい。ただ、その記事がどうこう言っているわけではない。よく記事を見させていただいたうえで、陰謀かどうか、よく検証させていただきたい。

－以上－